

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2772402554
法人名	有限会社 杉山手
事業所名	グループホーム 杉山手
訪問調査日	平成 19 年 9 月 13 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 25 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2007年9月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2772402554
法人名	有限会社 杉山手
事業所名	グループホーム 杉山手
所在地	大阪府枚方市杉山手3丁目27番12号 (電話) 071-859-4338

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成19年9月13日	評価確定日	平成19年10月25日

【情報提供票より】(平成19年9月5日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤 5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 5.3 人	

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有() 円 ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4)利用者の概要(9月5日現在)

利用者人数	6名	男性	1名	女性	5名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	79歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	西本医院 高井医院 うめもとクリニック 京阪奈病院 岡田歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは枚方市郊外の静かな自然豊かな住宅地の一角にある。代表者が自らの経験から認知症介護施設の社会的必要性を感じて開設した。開設後3年が経過して様々な経験を積み重ねて来た代表者や職員の対応に自信と余裕のようなものを感じさせる。普通の1戸建て住宅を少し改造したホームであるから「普通の家」そのものである。代表者がホーム長・管理者を兼ねた運営であるために職員と利用者を含めた家庭的な対応がここでは実践されている。職員は代表者を「お母さん」と呼んでいるように比較的少人数の利用者に対して、心の行き届いたチームケアが職員の工夫と努力で行われているように感じられる。これからは地域と共に暮らし続けるホームを目指しながら利用者と家族と地元の期待に応えていただきたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題への取り組みは前向きに継続されているので成果が期待できる。外部評価では研修内容の活用が期待されていたがファイルを作るなどの改善が確認出来た。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の各項目の考え方を職員全員で話し合う過程で、管理者と全職員がサービス評価への取組みを再確認する事が望ましい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回運営推進会議が開催されている。内容もホームの状況をオープンにして意見を求める内容になっている。地域の代表の会議への出席頻度が残念ながら少ないので、折角の内容を活かすように地域の代表の出席確保のための働きかけを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には毎月書面にて本人の様子や次月の予定を書き、スナップ写真等を添えて連絡している。本人状況の変化については電話連絡を欠かさないようにしている。家族の来訪時には利用者の最近の状況を報告する等、積極的に話をするように努めて、意見や希望を引き出すように心掛けている。相談事は別室で聞くようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所からはホームの存在および活動について理解が得られている。ホームとしても地域住民との交流を大切にする考えで日常の運営の面でも努力している。近隣の住民によるピアノ演奏などの交流もある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの運営理念として「自然に囲まれた環境の中、地域で心豊かにその人らしく安心と希望をもてるグループホームを目指します」という独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	代表者が管理者であり、職員と共に理念の実践を日常のケアの中で実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所からはホームの存在および活動について理解が得られている。ホームとしても地域住民との交流を大切にする考えで運営の面でも努力が伺える。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の課題は解決に向けた取り組みが行われており、自己評価および外部評価の狙いを基本的には理解して貫っている。更に評価を活かす取り組みが課題である。	○	自己評価の各項目の考え方を職員全員で話し合う過程で、管理者と全職員がサービス評価への取組みを再確認する事が望ましい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議が開催されている。内容もホームの状況をオープンにして意見を求める内容になっている。地域の代表の会議への出席頻度が残念ながら少ないのが、折角の内容からもったいない気がする。	○	運営推進会議がホームと地域とのつながりに貢献できるように地域の代表の会議への出席頻度がある程度確保できるような働きかけを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口や地域福祉担当窓口等と接触を持つようにしてホームの運営に活かす取り組みと姿勢を持っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月書面にて本人の様子や次月の予定を書き、スナップ写真等を添えて連絡している。本人状況の変化については電話連絡を欠かさないようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には利用者の最近の状況を報告する等、積極的に話をするように努めて、意見や希望を引き出すように心掛けている。相談事は別室で聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者(管理者)も職務に就いているので職員の異動等についての配慮は行き届いている。利用者が少人数のために新任の職員と利用者との信頼関係はうまく出来ている、それに職員の異動は少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者には職員の研修参加や資格取得に積極的に取り組む姿勢を持っている。費用や時間についても配慮をしている。研修報告は閲覧できるようにまとめている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要な時に情報の交換が出来るように、他の事業所との連絡を大切にして、ホームの運営に活かすように努めている。枚方市のいくつかの事業所と互いに見学や意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には家族や本人と時間を掛けて話合っている。家族や本人の都合を優先しながら、安心して新しい生活に馴染めるような工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員間で相談しながら認知症の本人と苦勞を共にするという考え方で接するように心掛けている。利用者の得意分野で力を発揮して貰うような試みも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がどのように過ごしたいか、何をしたいか、誰に会いたいかな等の希望や意向の把握に職員は気を使いながらケアを行っている。本人のこれまでの事を家族によく聞くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人と良く話し合い、また関係者から本人の状況を聞き取り、職員間でアイデアを出して介護計画書を作成している。家族は介護計画書の説明を受けて話合っている。作成に職員が関わっているために具体的なケア内容になっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員による定例会議の場で職員からの報告で利用者一人ひとりの状況を再確認している。見直し時期や状況変化に応じて介護計画の見直しが行われている。介護日誌は健康状態・受診情報の記録を別にしておき、変化の状況がつかみやすいように工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や特別な外出については柔軟に対応して利用者個々の満足が行くようにしている。認知症に関する勉強会を自治会で開催する計画等も考えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望を優先してかかりつけ医への受診対応を支援している。契約医は月に2～3回の訪問診療を受けるようにしている。訪問看護の事業所とも連携している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	最近に実際に看取りした経緯がある。家族とはその方針について文書にて取り交わしている。家族やかかりつけ医と相談しながら家族の希望に沿った形で対応する姿勢である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人を尊重した呼び方、言葉かけ等は利用者の自尊心やプライバシーに配慮した職員の対応になっている。職員自信もプライバシーへの配慮を十分認識している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が少人数であるから、一日の過ごし方についても本人のペースを尊重した支援が実現できている。生活のリズムづくりにも職員は気を配っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夏野菜は自前の菜園で採れたトマトやナスを食材として利用している。献立は管理者が嚙下能力や栄養バランスや利用者の希望を入れて立てている。新鮮な食材を使った食事を利用者に提供したいという方針から、一般家庭のように職員がスーパーへ買い出しに行く。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の体調や希望を考慮しながら落ち着いてゆっくり楽しめるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	色塗りや音楽セラピーなどリハビリを含めて、利用者の残された機能・能力を維持し発揮して貰うために、掃除や片付けなどの役割や楽しみごとを職員が工夫して考えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出や散歩の時間の確保のために近所からパートに来て貰っている。近くの喫茶店や公園へ行くなど外出支援への積極的な取り組み姿勢が感じられる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊傾向の利用者が居るために止むを得ず玄関の施錠頻度が高くなっているが、基本的には玄関は施錠せずに開放しておく考えである。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練、消火訓練をはじめ、職員のみによる想定演習も行うようにしている。地域のボランティアの協力も得られるように働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理上の記録は一目で分かるようになっている。記録の仕方に工夫がある。栄養バランスを考慮した献立が工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の一戸建ての民家を改造しているので広くはないが共用空間のいずれの部分も家庭的なしつらえになっている。手すりやスロープなどにも配慮がされている。季節感も自然に感じられるので施設的な雰囲気はまったく無い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には家具や仏壇を始め写真などが持ち込まれて、その人らしい居室作りに職員が家族と相談しながら心配りをしている様子を感じられる。		